文系ラボ　世界史のテーマ史

世界史 中国の官吏登用史 確認問題集

全19問　／　解答・解説は後半　　名前 _____

記事「世界史 中国の官吏登用史まとめ｜郷挙里選・九品中正・科挙の流れ」を読んだあとに解く問題集です。答えを書いてから後半の解答・解説で確かめ、間違えた問題は解説にある記事の節を読み直してください。

第1部　一問一答

問いに当てはまる語句を答えなさい。

1 周で、王が一族や功臣に土地を分け与えて治めさせ、土地と地位を子孫に受けつがせたしくみを何というか。

2 前漢の劉邦（高祖）が採用した、直轄地には郡県制をしき、遠い地方には一族や功臣を王・侯として封じた制度は何か。

3 九品中正で、一品から九品までに分けられた政府の官職の等級を何というか。

4 220年に始まった九品中正を建議した、魏の尚書は誰か。

5 九品中正のもとで家柄が重んじられた状態を「上品に寒門なく、下品に勢族なし」と評した人物は誰か。

6 唐で、礼部の試験に合格した者が実際に官職につくため、さらに試験を受けなければならなかった役所はどこか。

7 875年に始まった唐末の反乱の指導者で、塩の密売人であり、科挙に及第できなかった人物は誰か。

8 宋代以後、科挙に及第して官僚を出した家で、徭役の免除などの優遇を受けた家を何というか。

9 明・清の科挙で、各省で3年に1度行われた郷試の合格者を何と呼んだか。

10 永楽帝の命で1415年に完成し、朱子学の解釈にもとづく科挙の試験の基準とされた四書の注釈書は何か。

第2部　正誤問題

次の文ア〜エのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

11 漢から魏晋南北朝の官吏登用について。

ア　郷挙里選は、前漢の武帝のころに制度として整った。
イ　郷挙里選では、実際には豪族の子弟が多く推薦された。
ウ　九品中正は、隋の文帝が始めた制度である。
エ　党錮の禁では、宦官が儒学を学んだ官僚らを弾圧した。

12 隋・唐の科挙について。

ア　科挙は、隋の文帝のときに始まった。
イ　唐の科挙では、詩や文章を試す進士科がしだいに重んじられた。
ウ　唐では、礼部の試験に合格すれば、ただちに官職につくことができた。
エ　則天武后は、門閥によらない人材の登用を進めた。

13 宋・元の科挙について。

ア　殿試は、宋の太祖が科挙の最終試験として加えた。
イ　宋では、科挙の科目が進士科にまとめられた。
ウ　元は、中国を統一した直後から科挙を行った。
エ　元の科挙では、朱子学の経典解釈が試験の標準とされた。

14 明・清の官吏登用と社会について。

ア　八股文は、明・清の科挙の答案に用いられた文体である。
イ　郷紳の地位は、世襲の身分として代々受けつがれた。
ウ　満漢併用制では、中央官庁の要職に満洲人と漢人を同数任命した。
エ　科挙は、1905年に廃止された。

第3部　年代の並べ替え

次のア〜エを、古いものから年代順に並べなさい。

15 漢から隋までの出来事を年代順に並べなさい。

ア　魏で九品中正が始まった。
イ　後漢で党錮の禁が起こった。
ウ　前漢の武帝のころに郷挙里選が整った。
エ　楊堅（文帝）が隋を建てた。

16 隋から宋の成立までの出来事を年代順に並べなさい。

ア　黄巣の乱が起こった。
イ　則天武后が皇帝となった。
ウ　趙匡胤が宋を建てた。
エ　隋で科挙が始まった。

17 明の成立から清末までの出来事を年代順に並べなさい。

ア　科挙が廃止された。
イ　戊戌の変法が始まった。
ウ　『四書大全』が完成した。
エ　朱元璋が明を建てた。

第4部　論述問題

次の問いに答えなさい。字数は目安です。

18 魏晋南北朝時代に門閥貴族が形成された理由を、九品中正のしくみにふれながら120字程度で説明しなさい。

19 宋代に科挙の性格がどのように変わり、どのような層が支配層となったかを、唐と比べながら150字程度で説明しなさい。

世界史 中国の官吏登用史 確認問題集　解答・解説

第1部　一問一答

1 **封建制**

秦の始皇帝は、これを中央から派遣する官僚が治める郡県制に改めました。地方を治める人の地位が世襲から任命へ変わった点が大切です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／前史：周の封建制から秦の郡県制へ

2 **郡国制**

郡県制を一気に広げた秦が短い期間で崩れたことをふまえた制度です。諸侯の力はしだいに弱められ、武帝のころには郡県制とほとんど変わらなくなりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／前史（制度の表）

3 **官品**

中正が人物につけた等級は郷品です。政府は郷品に見合った官品の官職に人を任命し、最初の任官（起家）はふつう郷品より4等下の官品からでした。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／魏晋南北朝（用語の表）

4 **陳群**

九品中正は魏の文帝のもとで始まりました。本来は才能と徳行で人を選ぶことをめざしましたが、実際には有力な家が高い郷品を得るようになりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／魏晋南北朝

5 **劉毅**

上の等級には家柄の低い者がおらず、下の等級には勢いのある家の者がいない、という意味です。こうして門閥貴族が形成されました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／魏晋南北朝

6 **吏部**

唐の科挙の合格は官僚になる資格にすぎませんでした。宋で殿試が加わると、吏部の試験は形だけのものになりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／唐

7 **黄巣**

反乱は884年まで続き、唐が滅びるきっかけとなりました。科挙に落ちた人が反乱の指導者になる例として押さえておきます。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／唐

8 **官戸**

官戸の多くは形勢戸の出身でした。子や孫が及第しなければ地位を保てなかったため、貴族のような固定した家柄にはなりませんでした。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／宋（用語の表）

9 **挙人**

郷試の次は都で行う会試、最後が皇帝の前で行う殿試です。殿試まで合格すると進士となり、首席は状元と呼ばれました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／明・清（段階の表）

10 **『四書大全』**

同時につくられた『五経大全』とともに、経典の解釈を朱子学に一本化しました。朱子学が科挙の基準となった出発点は元の科挙です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／明・清

第2部　正誤問題

11 **ウ**

九品中正は220年に魏で始まりました。隋の文帝は九品中正を廃止して科挙を始めた人物です。「文帝」という同じ名前にまどわされないようにします。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／魏晋南北朝・隋、入試で狙われるポイント

12 **ウ**

唐では、礼部の試験に合格しても官僚になる資格を得ただけで、任官にはさらに吏部の試験が必要でした。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／唐

13 **ウ**

元は中国統一のあともしばらく科挙を行わず、仁宗のときに再開しました。再開後の科挙はモンゴル人や色目人を優遇するものでした。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／宋・元

14 **イ**

郷紳の地位は一代限りで、世襲の身分ではありませんでした。そのため有力な家は、一族から科挙の合格者を出すことに力を注ぎました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／明・清・清末

第3部　年代の並べ替え

15 **ウ→イ→ア→エ**

郷挙里選（前漢の武帝の時代、前141〜前87年）→党錮の禁（166年・169年）→九品中正（220年）→隋の成立（581年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

16 **エ→イ→ア→ウ**

科挙の開始（6世紀末）→則天武后の即位（690年）→黄巣の乱（875年）→宋の成立（960年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

17 **エ→ウ→イ→ア**

明の成立（1368年）→『四書大全』の完成（1415年）→戊戌の変法（1898年）→科挙の廃止（1905年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

第4部　論述問題

18 **解答例：魏で始まった九品中正は、州や郡に置いた中正が地元出身の官吏志望者に郷品をつけて推薦し、政府が郷品に見合う官職を与える制度であった。しかし中正には地方の有力者がつき、有力な家の子弟に高い郷品を与えたため、高い官職を同じ家が代々占め、門閥貴族が形成された。**

採点のポイント：①魏で始まったこと、②中正が郷品をつけて推薦し官品を与えるしくみ、③中正を地方の有力者が占めたこと、④有力な家が高官を独占し門閥貴族となったこと、が入っているか。「上品に寒門なく、下品に勢族なし」にふれてもよい。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／魏晋南北朝、論述で使える要点

19 **解答例：唐の科挙は礼部の試験で官僚の資格を与えるだけで、任官には吏部の試験が必要であり、世襲の貴族がなお力をもっていた。宋の太祖は文治主義をとり、皇帝みずから行う殿試を加えたため、合格者は皇帝と直接結びつき、君主独裁を支えた。貴族にかわって、形勢戸などの出身で儒学の教養をもつ士大夫が、科挙を通じて官僚となり支配層を形成した。**

採点のポイント：①唐の科挙の限界（礼部の資格試験、吏部の試験、貴族の存続）、②宋の太祖と文治主義、③殿試と君主独裁、④士大夫の台頭と形勢戸・官戸、が入っているか。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／唐・宋、比べて覚える、論述で使える要点

問題・解説は文系ラボのオリジナルです。無断転載を禁じます。